

国語 第3学年 短歌を楽しもう

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を、私の学級に合わせて直してください。最初に学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や必要な配慮、使える授業時間と研究授業の位置、ICTと紙の道具について、一項目ずつ質問し、答えを待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、短歌を声に出して読み、言葉の響きやリズムと情景を結び付けて楽しむ。音数を数えることだけで終えず、語の意味も確かめる。このねらいを保ち、目標・評価規準・計画・本時の活動の対応を確かめて全文を書き直してください。本文や台詞、挿絵、教科書固有の問題文は転載しないでください。時数や人数、時間配分は私の回答か出典があるものだけを使ってください。児童の反応を実測した事実として書かず、予想として示してください。三重の指導案の見出しの順を保ち、教師向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更した所と、その根拠となった私の回答を最後に示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第3学年 国語科学習指導案

1 単元名「短歌を楽しもう」 教材名「短歌を楽しもう」

2 単元の目標

文語調の文章の響きやリズムに親しんで音読できる。文章から想像した様子や感じたことを言葉を根拠にまとめ、友達と伝え合える。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①文語調の文章の響きやリズムに親しんで音読している。〔知識及び技能〕(3)ア)

〔思考・判断・表現〕①「読むこと」において、文章から想像した様子や感じたことを言葉を根拠にまとめ、友達と伝え合っている。(C(1)オ)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

短歌を声に出して読み、言葉の響きやリズムと情景を結び付けて楽しむ。音数を数えることだけで終えず、語の意味も確かめる。学習指導要領のC(1)オを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(3)アを、言語活動の中で確かめる。年間計画の重点は知識・技能であり、本案ではそれを使う言語活動の関連項目としてC(1)オを加えている。

(2) 児童について(学級の実態を書く)

(3) 指導について

教師が教科書の実際の文章を範読し、意味を確かめる必要のある語だけを補う。配布物には本文を転載せず、児童は自分の教科書で区切りの候補を確かめる。本時は短歌を対象を絞る。古い言い方は必要な語だけ意味を補い、書かれていない作者の体験は推測で補わない。おおむね満足できる状況は、文章から想像した様子や感じたことを言葉を根拠にまとめ、友達と伝え合っているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画(全1時間)

第1次 第1時(本時): ○範読を聞いて言葉の響きを確かめる。必要な語の意味と情景を話す。区切りや強弱を変えて読む。伝わった様子と読み方の関係を比べる。 評価: 知①・思①(発言・学習記録)

6 本時の指導(1/1)

(1) 本時の目標

文章から想像した様子や感じたことを言葉を根拠にまとめ、友達と伝え合える。

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：使う教材を確かめ、今日比べる言葉や表現への自分の考えを短く書く。

○「どこで区切り、どの言葉を響かせると、様子が伝わりますか」

【めあて】短歌を声に出して読み、言葉の響きやリズムと情景を結び付けて楽しむ。

予想される児童の反応：・同じ速さで読むより区切りがあると聞きやすい。

指導上の留意点：本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。

【展開】

学習活動：○「どこで区切り、どの言葉を響かせると、様子が伝わりますか」

自分で言葉や本文の箇所を確かめ、理由を添えて考えを書く。ノートを見せて説明し、聞き手は分かったところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。選んだ言葉の響きが伝わるよう、区切りや間を変えて音読し、聞き手が感じた様子を伝える。読む前後の感想を比べ、音読して気付いたことをメモに足す。

予想される児童の反応：・同じ速さで読むより区切りがあると聞きやすい。

・今とは違う言い方でも景色が浮かぶ。

・友達の読み方では別の言葉が印象に残った。

指導上の留意点：教師が教科書の実際の文章を範読し、意味を確かめる必要のある語だけを補う。配布物には本文を転載せず、児童は自分の教科書で区切りの候補を確かめる。本時は短歌に対象を絞る。古い言い方は必要な語だけ意味を補い、書かれていない作者の体験は推測で補わない。

想定するつまずき：音数を数えるだけで情景を考えない、意味不明のまま音だけをまねる。

児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。

評価：思① 文章から想像した様子や感じたことを言葉を根拠にまとめ、友達と伝え合っている。(発言と学習記録)

知① 文語調の文章の響きやリズムに親しんで音読している。([知識及び技能] (3)ア) (使った言葉・音読や表記の確認)

【まとめ】

学習活動：【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。

学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。

予想される児童の反応：・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。

・友達の読み方では別の言葉が印象に残った。

指導上の留意点：まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。

評価：態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画 (縦書き・右から左へ)

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「どこで区切り、どの言葉を響かせると、様子が伝わりますか」。

中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

